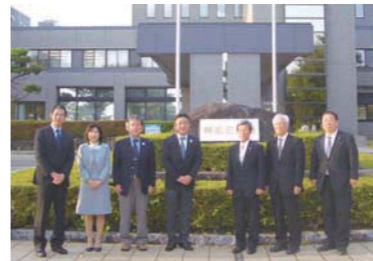


全国トップクラスの学力を誇る先進地
 (秋田県美郷町、大仙市、東成瀬村、由利本荘市)

「小中学校の学力向上の取組み」をテーマに、秋田県の南部に位置する2市1町1村(美郷町、大仙市、東成瀬村、由利本荘市)を視察した。秋田県は、文部科学省の全国学力・学習状況調査(学力テスト)で連続して全国トップを走り注目されている。

学力向上の取組みに
 6つの共通点を発見

- ① 一方的な先生の講義ではなく、子ども達が小グループで「課題」を見つけ、子ども同士で考えあう「学び合い」を中心とした学習(アクティブ・ラーニング)を実施している。
- ② それぞれの教育長は、秋田県の教育委員会に勤務した経験がある。
- ③ 人口減少が共通の悩みで、まちづくりの担い手として、子ども達の教育に特に力を入れていく。
- ④ 基本教科で20人程度の少人数学習、担任、副担任制度など、きめ細かな指導体制を敷いている。
- ⑤ 学び合いは、特に先生の力量が問われるため、県の事業として、自治体ごとに教育専門監(優れた指導力を持つ教諭が任命される)を配置、大仙市との連携や研修会を常々実施し、指導力の向上を図っている。
- ⑥ 家庭学習では、子ども自身が目標・計画を決めて実行し、そのチェック



美郷町役場前で。美郷町議長と総務委員



大仙市役所で説明を受ける総務委員

は担任の先生だけでなく、多くの先生や地域の方、親などが関わることで、子どもを理解し励ましている。

それぞれのまちの独自の取組み

美郷町 人口約2万人の美郷町は、2町1村が合併した町。「豊かな人間性を育み、将来の美郷を担う人間の育成」を教育理念に、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う心情を培っていくことを目指している。家庭教育10ヶ条を作成し、家庭教育がより一層充実するような働きかけも行っている。

大仙市 1市6町1村が合併して発足、人口8万4000人。少人数学級などで、一人の子どもを複数の目で見ることで、子ども主体の授業づくり、市



東成瀬中学校の廊下に貼り出されていた調べ学習のポスター

東成瀬村 人口2600人、93%が山林のこの村は、合併しないことを選択した。「教育が村づくりの土台」という共通認識のもと、小村ならではの施策を展開している。2000人の村人ボランティアを巻き込んだ「社会総参加の教育」、歴史と伝統に根ざした「継承と発展の教育」、「地域社会づくりの教育」、「創意工夫の教育」が教育行政方針。その成果か、教育視察者が毎年500人を超える。

由利本荘市

1市7町が合併した人口8万人のこの市では、すべての学校で地域が主体となったコミュニケーション・スクールを実施。「人間性豊かで進取の気性に富む、たくましい子どもの育成」を目指した教育を推進している。板書とノートを連動させる授業スタイルの構築、一人勉強ノートによる家庭学習の推進、学習単元ごとの評価問題による確認と結果の反映、英語教育の推進、体験型理科教育の推進、教育専門監3



東成瀬村では中学校の図書室で説明を受けた

名の配置などに取り組んでいる。教育長は、「教育はアピールである」を掲げ、マスコミを活用し、有名人を招く。教員にもそれを徹底している。

教育は未来を拓くから

今回の視察は、全国から注目されるアクティブ・ラーニングの先例として参考になった。また、教育に必要な予算はしっかりつけることが大事であり、教育は生きる力を育て、未来を拓くことにつながる実感した。

自分たちのまちは自分たちでつくる

「秋田県横手市」地域づくり協議会

横手市は「地域づくり協議会」を設置し、各地域がまちづくりの計画を立て、予算化し、地域づくりに取り組んでいる。住民満足度も高く、今後のまちづくりの参考となると考え視察した

横手市は平成17年に近隣8市町村が合併し、秋田県第二の人口規模となった。合併する際、8市町村への対応策として「地域づくり協議会」を設置した。それぞれ自分の地域をどうしていくかを自分たちで考えるための仕組みである。各地域から選出された129名の委員で構成され、地域の問題などを集約し、市への意見や提案などを行う。

「地域づくり協議会」の下には36の「地区会議」が設置され、伝統行事の継承などのソフト事業から、道路改良などのハード事業まで、地域が必要とする予算を市に要求し、事業が実施される。

「地域づくり協議会」の下には36の「地区会議」が設置され、伝統行事の継承などのソフト事業から、道路改良などのハード事業まで、地域が必要とする予算を市に要求し、事業が実施される。

横手市の取組みは、市民協働の観点から、羽村市でも取り入れられる要素が多くあることを実感した。



大谷池地から見る鳥海山の雄大な姿 (由利本荘市観光協会提供)

地域の必要をきかせることで自覚が生まれる

市予算の使いみちを決定できるという重責と自覚の下で市民意識に変化が生じ、まちづくりへの工



説明を受ける総務委員

高冷地の弱点を、強みに
〔長野県川上村〕 日本一のレタス産地

八ヶ岳山麓の長野県川上村は標高1000mを超す高冷地。農業には不適にもかかわらず農業のみで魅力ある村づくりが実現したのは「不利な条件を逆手にとった地域づくり」。稲作ではなく、高原野菜に特化した。レタスが品薄になる夏季、早朝に収穫し保冷車で消費地に直送する。鮮度の良さが評価され、出荷量は全国1位となった。

人口4千人の村が掲げる
4つの誇り

宇宙飛行士・油井亀美也さんの出身地でもある村の人口は約4

千人。「地域産業力」「老人力」「労働力」「健康力」という「4つの誇り」を掲げている。

「地域産業力」は、農業後継者の平均年齢が30歳。若者が地元に残るので耕作放棄地がゼロ。

「老人力」では健康老人率が85.1%と日本一。65歳以上の高齢者就業率は50.3%。こうして長く働ける環境が高齢者の健康を維持しているのだろう。農家の平均年収2500万円、諸経費を引いても手取り1000万円は「労働力」があればこそ。しかし夏の3か月、深夜から未明までの過重労働となり、学生アルバイトや900名以上の外国人実習生を受け入れざるを得ない問題もあるという。



広大な川上村の野菜畑



川上村で説明を受ける経済委員

「健康力」は、国保一人当たりの年間医療費が約17万円、全国平均の約半分とのこと。村民が健康で熱意を持って農業に取り組む姿に感銘を受けた。

「羽村市は都市近郊の利点を最大限に生かした農業再構築をする」といふ副村長のアドバイスは、市の農業振興を考える上で大いに参考になった。

地域ニーズに応え、大型モールに対抗
〔長野県佐久市〕 岩村田本町商店街

新幹線、高速道路やバイパス整備などで大型店が次々進出。その大波を乗り越えて商店街を活性化させたのが、佐久市岩村田本町商店街である。

商店街の危機に立ち向かう
日本一若い組合

古くは中山道の二十二番目の宿場町として、長野県東部の中心都市として栄えたが、長い歴史の中で商店街は浮き沈みを経験してきた。大型店が売り上げの80%を超える環境の中、次世代の後継者が戻り始めたのを機に、青年会が新たな岩村田本町商店街振興組合を設立。日本一若い組合（理事の平

均年齢は36・7歳）として、企画力・行動力で次々に改革と新規事業を展開した。日本一長い草餅など「日本一イベント」を実施してはメディアに取り上げられ、多くの人が集まるようになった。

徹底した調査分析で
新たな方向性を見出す

しかし売り上げには反映されず、イベント型からの脱却を模索。原点に戻り地域密着型の商店街を目指した。住民からの要望の実現に重点を置き、国や県の補助金を得て、15あった空き店舗への対策を独自に実施した。集会所ベースの提供、起業希望者への格安貸出し、



上田市で説明を受ける経済委員



起業者に2.5坪のスペースを貸し出す
岩村田本町商店街の「手仕事村」



岩村田本町商店街「子育てお助け村」
託児サービスや子育て相談も行っている

子育て支援と寺子屋塾、青春食堂買物弱者支援など、本来行政が実施する課題に果敢に挑戦して実現させた。現在では県道220mの両側に42店舗が軒を連ね、発展している。

若さだけでなく、徹底した調査分析と多くの方との連携協力で、

答えは足元にあることを見出した。人が集まり知恵を出し合えば、悲観を希望に変える発展の種がどこにもあることを、日本一の岩村田本町商店街から学んだ視察だった。

80年に及ぶロケ地の歴史が
大河ドラマ誘致を支える

「真田丸」効果は200億円

〔長野県上田市〕 信州上田フィルムコミッション

NHK大河ドラマ「真田丸」の放映で舞台となった上田市の観光客は激増。撮影セットや衣装、鎧などを展示した「真田丸大河ドラマ館」入場者は100万人に迫り、県内への経済効果は200億円にもなるという。戦国武将として徳川軍を2度撃破、大坂冬の陣では豊臣方で参戦。出城「真田丸」を拠点に徳川軍を苦しめた知将・真田信繁の波乱の生涯は市民の誇りでもある。この思いを大河ドラマで実現させたいと市民、行政が協



真田昌幸によって築城された上田城（上田城址公園）



地元小学生が描いたイラスト。「真田丸」は子どもにも大人気

誘致運動の支えは80年に及ぶロケ地の歴史だ。「犬神家の一族」「男はつらいよ」など映画史に残る名作が並ぶ。「日本一のロケ地」と呼ばれる理由は、雨の少なさ。東京からの交通の便。自然風景と城下町の風情あるまちなみ。行政や市民の協力である。

映画製作を無償で支援する
3人のスタッフ

ロケの誘致・支援などの映像製作を無償支援するのが「信州上田

フィルムコミッション」。2001年に設立、スタッフは3人。平成28年度の事業予算は630万円。昨年度のロケは69件。ロケ地めぐりなども企画し観光振興にも役立っている。

一過性にしない取組みを
にぎわいを

「真田丸」人気を一過性で終わらせないために、いま取り組む映画が「うさぎ追いつし・山際勝三郎物語」。上田出身のがん研究先駆者だ。市内で撮影され、上映成功を願う応援団に市民500人が集結。年末からの公開に備えたという。「地元の宝を発見し、育てる」。まちおこしの事例は、羽村でも使えるだろう。

高齢者も障害者も子どもも一緒に

〈富山県富山市〉 富山型デイサービス

までそうやって暮らしたい」そんな強烈な想いだけで走り出し誕生した施設だ。

病院で死なない選択

この「にぎやか」の理念は3つ、「ありのままを受け入れる」「いい加減ですんません」「死ぬまで面倒をみる」。その人の人生をその人らしく生きをお手伝いをするというものである。しかし、家族であっても人間が集まるところには対立が付きもの。そこで阪井さんはスタッフと共に「ひとを許すこと」を最も心がけているという。これが一番の仕事であり、苦勞しているようだ。

最も印象に残ったのは「死ぬまで面倒をみる」という部分である。

老いて死んでいくということは今の延長であり、命の始まりと同様、その終わりは人の力が及ばないものだという経験から出る言葉だった。死を恐れ常識にとらわれるあまり、過度に医療に頼ってしまうことが本人にとって本当に幸せなのだろうか。

この「にぎやか」で、病院で死なないという選択肢の一つを実際に見ることで考えさせられた。**迷惑をかけない社会でなく地域で支える社会に**

2か所目の「デイサービスこのゆびと一まれ」では、利用者の方がいる中でお話を伺った。

今の隣近所は助け合うことではなく、迷惑をかけないことがル



富山型デイサービスとデイケアハウス「にぎやか」について、「チームむら」(利用者)3人が説明



「にぎやか」スタッフ、利用者と厚生委員



さまざまな道具が用意され、できることはやる

高齢者も家族も幸せに生きられる地域づくりを

〈富山県南砺市〉

地域包括ケア

富山県南砺市では、社会貢献された高齢者を不幸にせず、支える家族も犠牲にしない地域づくりを実践している。厚生委員会でその取り組みを視察した。

南砺市は富山県の南西端に位置し、平成16年に4町4村が合併し誕生した。面積は669平方キロメートルで羽村市の約67倍、人口は約5万2500人、75歳以上の人口は約1万人で高齢化率は約36%になる。

厚生労働省では、平成37年を目途に、市区町村が中心となり、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・



南砺市で地域包括ケアの取り組みについて説明を受ける厚生委員

介護予防」など、地域にある支援サービスの提供体制を包括的に構築することを進めている。これは、高齢者が尊厳を保ちながら自立した生活が送れるように、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるように、介護や医療、生活支援サポートやサービスを整備するもの。この仕組みを「地域包括ケアシステム」と呼んでいる。

理想的な地域包括ケアを展開できる環境を整備

南砺市ではこれにちなみ、平成24年に市の医療課・地域包括課と、市内に2つある公立病院(南砺市民病院・公立南砺中央病院)との連携強化のため、行政組織として、地域包括医療ケア局を発足した。

平成28年4月には、さらに市の健康課・福祉課も合わせて、「地域包括医療ケア部」に再編。医療、介護、福祉の連携を強化し、加えて生活支援も一体的に管理運営す

る、理想的な地域包括ケアを展開できる環境が整備されている。

住民同士の支え合いを強化

南砺市住民マイスターの会

また、住民同士が支え合う自助・互助機能の強化を目指して、地域医療再生マイスター養成講座を開始し、市民の意識を高めている。これまで多くの「マイスター」を育成しており、修了生の住民が参加する「なんと(南砺)住民マイスターの会」が組織されている。

ここでは、自らの介護体験などに基づき、自分たちが住みたい、住み続けたいまちをどう作っていくか、医療、介護、福祉と地域の連携や、協働、支え合いの仕組み作りなどについて話し合う。地域医療のために「自分たちに何ができるか」という意識が生まれ、自主的な活動が活発になったとのことだった。

私たちの羽村市では、地域包括ケアシステムの構築については、まだまだ課題が多い。南砺市で学んだことを参考に、議会として取り組んでいきたい。



「このゆびと一まれ」で説明を受ける厚生委員



利用者がつくる「このゆびと一まれ」のリビング

しぎかいカレンダー

● 3月定例会の予定 ●

日	月	火	水	木	金	土
2/12	13	14	15	16 陳情 [△]	17	18
19	20 議運	21	22	23	24	25
26	27	28 本会議	3/1 本会議	2 本会議	3 予特 (補正)	4
5	6 本会議	7 常任委	8 常任委	9 予特	10 予特	11
12	13 予特	14	15	16 本会議	17	18
19	20	21	22	23	24	25

- 陳情[△]…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
- 議運…議会運営委員会
- 常任委…常任委員会（総務、経済、厚生）
- 予特（補正）…一般会計等予算審査特別委員会
- 予特…平成29年度一般会計等予算審査特別委員会

*会議の予定は変更になる場合があります。
詳細は議会事務局までお問い合わせください。

議会を見よう！知ろう！

～次の定例会は2月～3月～

本会議でどんなことがどのように話し合われているのか、様々な手段で知ることができます。皆さんの暮らしに直結していることばかりです。ぜひご覧ください。

1 議場で傍聴 ーライブで！

当日、直接議場へおいでください。

2 ケーブルテレビで生中継

TCN多摩ケーブルネットワークで、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。

3 インターネットで録画中継

開催日の3日後から、インターネットで録画中継を見ることができます。

4 会議録で読む

議会終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見ることができます。

羽村市公式サイト

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索



ぎかいPR動画作りました

2月16日からテレビはむらで1週間流れます。ぜひチェックしてください！

編集後記

平成28年を振り返ると、スーパー台風、大雨、地震、11月の記録的降雪など自然災害や異常気象が多い年でした。議会では、毎月議会改革の検討を進めるなかで、昨年の防災訓練の日に初めて議員の参集訓練を行いました。また「ぎかいのトビラ」は大きくリニューアルして早2年。広報紙への他自治体からの視察が増えるとともに、市民の皆様より反響も寄せられています。温かい応援のお言葉をいただいた時には勇気付けられ、厳しいご意見をいただいた時には、改善しようと努力を重ねてまいりました。何より反響をいただいていることに作り手と読み手の一体感を感じ、議会活動そのものが活性化されていると実感しています。新しい年を、さらに読みやすい広報紙を目指し前進してまいります。（西川記）

【広報委員会委員】

濱中 俊男（委員長）
高田 和登（副委員長）
浜中 順
富松 崇
大塚あかね
西川美佐保
印南 修太
富永 訓正

発行／羽村市議会 編集／広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042(555)0889

Tel 042(555)1111 (内線412～414、416)



「ぎかいのトビラ」は再生紙を使用しています。